

まだまだある！くるまで周る 函館近郊土木遺産

1 赤松並木

明治6年、我が国最初の本格的な西洋式馬車道札幌本道(現一般国道5号)完成の際に移植されたもので、日本近代道路史と北海道農業開拓史における歴史的遺産となっている。赤松が主体で(一部は黒松)最近補植したものも含め、約1480本が残っている。昭和61年には、「日本の道百選」に選ばれている。



2 笹流ダム

函館には、横浜に次ぐ日本で2番目の近代水道施設が整備されたが、明治末から急激な人口増加により水道供給が追いつかず、拡張事業の主要施設として、笹流ダムは大正12年に完成した。

当時、高価であったコンクリートを節約し工期も短縮する目的で、日本初の扶壁式中空RCダム(バットレス式ダム)という工法を用いている。昭和24年・昭和60年の二度の改修を経て、現在の姿となっている。

バットレス式ダムは、鉄筋コンクリート製の板で水圧を受け、その板をバットレスと呼ばれるコンクリートの扶壁と何本かの横桁で支える工法で堤体をつくるものである。工費及び工期を最小限にする工法である反面、構造が複雑で頻繁なメンテナンスが必要と言われ、現在はあまり採用されていない。



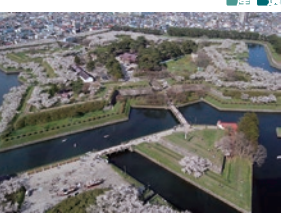
写真提供 函館市水道局
昭和60年の大改修前のダムの姿



現在のダムの姿

3 五稜郭

箱館奉行所は当初箱館山の麓にあったが、防備強化のため、安政4年(1857)より7年の歳月をかけ、元治元年(1864)に現在の場所に完成。16世紀頃に、大砲・小銃などの火器の発達に対抗する有効な土木技術としてヨーロッパにて考案された「稜堡式(りょうほしき)築城法」を取り入れ、武田斐三郎の手によって設計された。現在も数多くの観光客が訪れている。

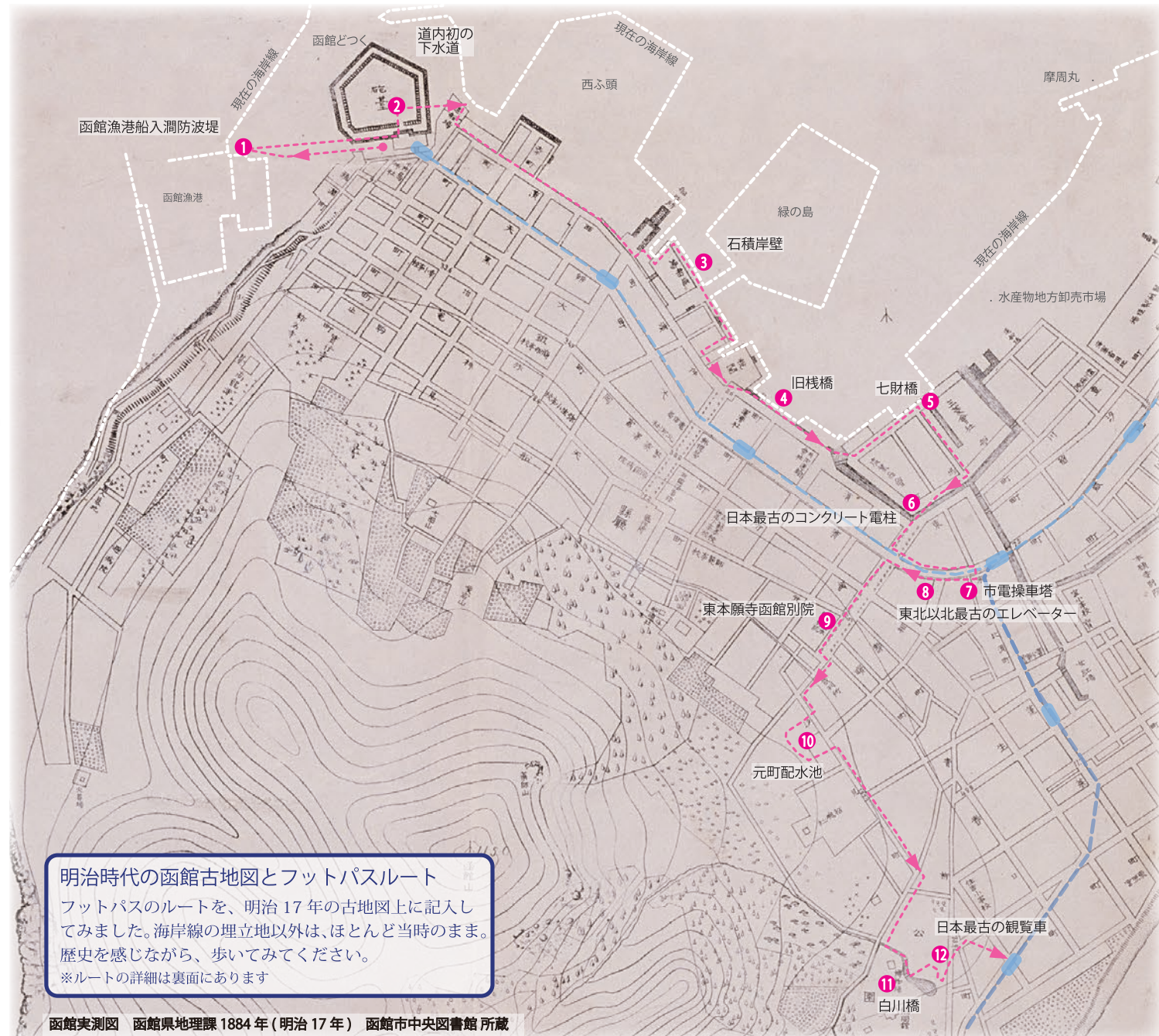


函館 土木・産業遺産 フットパス FootPath 改訂 第5版

北海道の中でも函館市は、道内または日本で最初の土木・産業遺産が多数存在しています。このことから土木研究所寒地土木研究所は、土木遺産における過去の土木技術の調査を実施し、その一環として函館市及びその近郊にある土木・産業遺産をフットパス等により有効活用を図り、函館観光に少しでも寄与できればと考え、このパンフレットを作成しました。尚、土木学会が選定した土木遺産、北海道で編集したデータベースの産業遺産を中心に対象施設を抽出した後、土木遺産・産業遺産が多数存在した函館市元町地区を実際に現地調査し、ルート選定を行いました。今後は、函館市観光コンベンション部とも連携し、さらにアンケート調査により市民の意見を聞きパンフレットを充実させたいと思います。

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする「昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径(こみち)【Path】」のことです。

問い合わせ先 CERi 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地技術推進室
札幌市豊平区平岸1条3丁目1番34号 TEL (011)590-4046
編集協力 公益社団法人日本技術士会 北海道本部 道南技術士会 / 函館産業遺産研究会

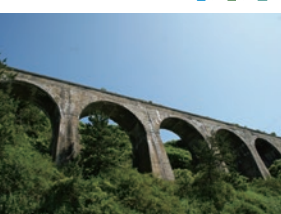


明治時代の函館古地図とフットパスルート
フットパスのルートを、明治17年の古地図上に記入してみました。海岸線の埋立地以外は、ほとんど当時のまま。歴史を感じながら、歩いてみてください。
※ルートの詳細は裏面にあります

函館実測図 函館県地理課 1884年(明治17年) 函館市中央図書館 所蔵

4 旧戸井線アーチ橋

戸井線は、汐首岬に設置されていた津軽要塞への兵員輸送や物資の補給のため、日中戦争の開戦の年、昭和12年より建設が始まった軍用鉄道である。戦時下の物不足の最中での難工事であり、特に鉄不足のため「竹筋コンクリート」橋であったと言われている。昭和18年、戦況の悪化により中断し、工事は再開されることのない「幻の鉄道」となった。



5 函館要塞

明治時代に10ヶ所の海岸要塞が造られたが、函館要塞は函館港防備で東京以北唯一のものである。明治35年完成。設備は28cm榴弾砲(りゅうだんほう)や15cm臼砲(きゅうほう)、9cm加農砲(かのうほう)等である。日露戦争では射程距離が7800mと短かったため、津軽海峡を通り抜けるウラジオ艦隊に対抗できなかった。その後は、津軽要塞に含まれ、訓練砲台弾薬・火薬等の備蓄基地として役目を果たした。敗戦にともない廃止となった昭和21年まで、函館山は一般市民の立ち入りは禁止されていた。



本冊子は、以下のウェブサイトからもダウンロードしてお使いいただけます。
国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
http://scenic.ceri.go.jp/pdf_pamphlet/2019/hakodate_footpath.pdf



函館港古写真 函館市中央図書館 所蔵

スタート 総距離:4,720m 所要時間:86分
 ※見学時間等は除く
函館どつく前 (函館市電)
 函館駅前より 函館どつく前行き(5系統)乗車約12分。

START

距離:360m 所要時間:7分

1 函館漁港船入潤防波堤

明治32年に完成した石積みの防波堤は、ほとんど改良工事が行われていないにもかかわらず、現在も現役で活躍。監督技士の広井勇博士は土木の父として有名。



距離:410m 所要時間:8分

2 道内初の下水道

明治29年に函館港改修にともない、弁天砲台を取壊しその埋立地に設置された下水道施設。鉄蓋しか見ることには出来ないが現在も現役で活躍している様子をうかがえる。弁天砲台に使用されていた石材を暗渠の蓋に使用しているが、現在はアスファルトに埋もれて見ることには出来ない。付近に数カ所点在する(図中の◆印が目印です)ので探してみるのもおもしろい。



距離:730m 所要時間:13分

3 石積岸壁

明治時代の名残が残る石積岸壁。向かいには近代人工島の「緑の島」もあり、新旧の調和が絶妙。表紙を見るとわかるように、運河は埋め立てられているものの、殆どは当時の海岸線を残している。当時、この付近には水上警察や外国人居留地や税関などがあり、特に税関(現海上自衛隊)辺りには古い石積岸壁が残っている。



距離:710m 所要時間:13分

4 旧棧橋

旧棧橋(東浜棧橋)は、青函航路の船着き場として明治43年まで利用されていた。そばには、北海道第一歩の地碑も立っており、まさに当時の北海道上陸の第一歩の場所である。



距離:400m 所要時間:7分

5 七財橋

明治15年より掘削工事が始まり、明治17年に竣工した橋で、名の由来は工事監督の石川七財の名をとっている。明治期にはこの橋の下をくぐる解(はしけ)で賑わったという。現在の橋は昭和44年に改修されたものであるが、風貌の美しさより、数多くの映画のロケ地として使われているため、観光スポットとしても有名。



距離:340m 所要時間:6分

6 日本最古のコンクリート電柱

函館はかつて火災が頻繁に発生していた為、当時まだ稀であった木柱ではなく角錐形のコンクリート電柱にしたと言われている。この電柱は大正12年に建てたもので、現存するものでは日本最古のコンクリート電柱で、現役最古としても活躍している。また、建物を挟んで同形のもので作られたため、夫婦電柱とも呼ばれている。



距離:270m 所要時間:5分

7 市電操車塔

昭和14年に、ポイントの切り替え等を手動による遠隔操作をするために建てられたもので、現存する路面電車の操車塔では国内最古といわれている。当時は市内に6基あったが、施設の自動化により順次姿を消し、この操車塔だけが平成7年まで使用されていた。



距離:80m 所要時間:1分

8 東北以北最古のエレベーター

大正12年に丸井今井デパートとして建てられ、昭和9年に今の手動式エレベーターとして設置された。その後、函館市の分庁舎として使用されていて、平成19年まで現役として活躍し続けた。このエレベーターは2台設置された内の1台であり、日本で使用している手動式エレベーターとしては、東北以北で最古と言われている。現在は地域交流まちづくりセンターとして利用されており施設スタッフに見学を申し出れば、エレベーターに乗り上階まで行く事も可能。



距離:290m 所要時間:5分

9 東本願寺函館別院

明治40年の大火で焼失したため、耐火建築にて再建することとなり、大正4年に完成した現在の本堂は、日本最初の鉄筋コンクリート寺院である。建築当初は構造的に不安に思う人も多かった。



距離:260m 所要時間:5分

10 元町配水池

明治22年に完成の中区配水池と明治29年完成の高区配水池があり、どちらも建設後100年以上経過している。特に中区配水池は日本人の設計監督による最初の近代水道施設で、現在もその役割を果たしている日本最古の配水池である。



距離:550m 所要時間:10分

11 白川橋 (函館公園)

函館公園は明治12年に多くの市民の手で造られた北海道初の洋式公園。公園内にある白川橋は、北海道で最初の洋式石橋と言われている。英国監督者の浅田清次郎が寄付した。



距離:100m 所要時間:2分

12 日本最古の観覧車

戦後の復興のため、昭和25年に造られた北海道初であり、また現役最古の観覧車である。ゴンドラのかたちも日本では珍しい長い型である。元々は大沼公園湖畔に「空中観覧車」と呼ばれ設置されていたが、昭和40年に本園に移設された。



距離:220m 所要時間:4分

ゴール

青柳町 (函館市電)
 函館駅前までは 湯の川行き(2系統)乗車約12分。

GOAL

函館 土木・産業遺産 フットパス FootPath



※所要時間については、見学時間を除く移動時間の目安です。